

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770900258		
法人名	社会福祉法人松籟会		
事業所名	かりゆしぬ村 グループホームくつろぎ		
所在地	沖縄県名護市宇茂佐1705-8		
自己評価作成日	令和5年 8月20日	評価結果市町村受理日	令和5年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4770900258-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年 9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣には住宅も多く並び、子供が遊ぶ声も聞かれ散歩時にも挨拶し交流ができています。また同法人事業所の包括支援センター・有料老人ホームが隣接しており職員の見守りができることでご利用者が自由に散歩できる環境である。
施設内のリビングから桜・つつじなど季節の花を楽しむ事ができ、自然に豊かな施設である。
平屋にて、面会制限中も各居室から窓越しに面会の継続ができており、面会が難しいご家族へは定期的にくつろぎ便りにて施設・ご利用者の様子を報告行う事でご家族とのつながりも継続できています。
職員が台所に立つことでご利用者の心身の状態に合わせて援助・食事の準備ができ、また嗜好に合わせた食事の提供が出来る。
「そのひとらしさ」を意識し職員全員で支援行う事に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人特別養護老人ホームを母体とし、敷地内には有料老人ホームや地域包括支援センターが併設されている。運営推進会議は、構成委員からの意見や要望等の声を聞く機会となっており、事業所内のミーティングで全職員が会議内容を共有し、その意見等に応えるためにどのように進めていくかを話し合い、実施できるように取り組んでいる。玄関先に設置している意見箱が活用されていないため、家族からの要望や意見を吸い上げる取り組みとして、家族アンケートを実施している。家族からの要望や意見を運営に反映していることを家族にも確認してもらうために、玄関先に要望や意見への回答を掲示している。職員が向上心を持って業務に取り組みやしやすい環境づくりや働きやすい職場づくりにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念をホール目の目につく場所に掲示し、職員の勉強会を行う事で共有し実践につなげている。パンフレットにも記載を行い、周知している。	開所当初から事業所独自の理念がある。「その人らしさの生活」を利用者一人ひとりが感じられるように、利用者に合わせてケアを職員間で確認し合い、日々のケアとして提供している。コロナ禍にあつて、運営面で困難な状況の中でも、理念の実践を具体的に進められるように管理者、職員が協力し創意工夫しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ少ないが、感染状況をみながら少しずつ地域の行事に参加している。民謡や紙芝居など施設に訪問してもらう事で鑑賞し、地域住民より野菜や苗などの差し入れを受けることで交流に繋がっている。	コロナ感染状況を確認し対策を講じながら、地域のボランティアや県外からの民話ボランティアとの交流を行っている。地域では、高齢者と子どもたちの交流の機会を作る「お話し会」開催予定がある。開催の準備として関係機関へ高齢者との関わり方や気をつけることなどのアドバイス等を求められており、利用者が地域と繋がる機会として取り組みを進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域への行事に参加する事と地域の学生の職場体験を誘致しており、認知症を身近に感じ、関心をもって頂けるように努めている。運営推進会議を通して事業所の利用者の状況・認知症について理解していただいている。また職員が協力できることを伝え、地域もボランティアの声かけもおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染状況を考慮しながら会議室やホールなど場所を変えながら、施設状況を報告し地域の方にいけんを求める	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。開催形式については、コロナ感染状況を確認し対策を講じながら、書面または対面で開催している。会議の内容については、職員ミーティングで報告し、職員全体で共有している。委員から介護の仕方等についての勉強会開催の要望があり、地域住民向けに介護体験等の勉強会の開催準備をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて行政や地域の方と意見交換しており、参加メンバーと交流が楽めている。またネットワーク作りにて協力体制が築けている。	市の担当者へ運営推進会議の議事録を定期的に提出している。コロナ感染対策についてや研修、事業所内での作成書類について、市の担当者から指導を受け、確認してもらっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外にて身体拘束の研修を受けており、身体拘束しないケアの意識付け、またスピーチロックに気を付け、声かけも気をつけている。出入口を施錠せず自由に入出入りできるため、職員の見守りを徹底している。	身体拘束等の適正化のための指針は整備されている。事業所は身体拘束をしない方針を掲げ、言葉遣いや接遇を含めたケアの向上に取り組んでいる。身体拘束適正化委員会は2ヶ月に1回会議を開催しており、現場での状況報告を定期的に行っている。外部・内部研修等で学び、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともに虐待しないケアを施設内外で研修しており、職員の意識づけ、ケアを振り返り不適切なケアではないかミーティングでも確認している。	高齢者虐待マニュアルは整備されている。管理者と職員は勉強会や外部研修で学んだことを全職員で共有しながら、知識や理解の浸透に努めている。日々のケアを通し、支援者としての言動は適切であったか、どのような行為が虐待につながるかを職員間で意識し合いながら虐待防止の徹底に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用している対象者はいないが、研修し今後の為にさらに勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学して頂き、契約書等も事前に確認していただいている。加算などもできるだけわかりやすく掲示し納得して頂くよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日々の声かけにて聞き取り、面会時やアンケートなども活用しご家族の要望等もくみ取るよう努めている。また運営推進会議を活用し、ご家族・利用者の意見を外部へ表す機会としている。	コロナ禍で中止していた家族会を今年度はクリスマス忘年会に実施予定している。意見箱を設置しているが、うまく活用されていない状況が続いている。そのため、2ヶ月に1回家族へアンケートを送付し家族からの要望や意見を運営の改善に活かせるよう取り組み始め、事業所内へ家族からの要望や意見の回答を掲示している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングを活用し職員と意見・要望をくみ取り、場合には法人の担当者会議を活用し、職員の意見を運営に反映している。ストレスチェックも行われ、メンタルヘルスにも取り組んでいる。	管理者は、職員が意見や要望を言いやすいように日頃からコミュニケーションを取っている。職員が利用者のために考え、業務に取り組みやすい提案を理解し、意図なども確認しながら、できる限り実現している。職員の得意な家庭菜園を利用者と一緒に土づくりや水やり、収穫まで楽しめるように環境づくりに取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況に合わせて就業時間や希望休なども聞き、ライフスタイルに合わせて部署移動など柔軟に対応もおこなっており、無理の無い勤務体制をとっている。資格取得にもは配慮し、働きやすい環境づくりを目指している。	職員の健康診断やストレスチェックも実施されている。職員各人が向上心を持てるよう、e-ラーニングを活用した研修や資格取得時には祝い金の支給制度等職場環境を整えている。職員の勤務の休みも気兼ねなく取れるような職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修が減っている為、グループホーム協会の研修に参加し、また参加できない職員は資料を用いて事業所内の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面しての交流はなかなかないが、県のグループホーム連絡会に加盟しており、情報交換や交流おこない、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学していただき、実際に確認したうえで何度も顔を合わせることで本人の不安要素や、状態把握に努め安心して頂けるような関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の想いや困っている事に耳を傾け、サービスに反映できるように努めている。些細な事も情報提供行う事で安心して利用して頂けるよう努めている。料金や加算などもわかりやすく提示を行い、理解した上で選んで頂けるように伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で本人・ご家族の想いを確認。事業所として何が出来るのかを考え、担当ケアマネや相談員より状態や要望など細かく理解を行っている。その上で事業所だけでなく法人の強みを生かしたサービスに繋がられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく者同士という関係を目指し、一人ひとりの想いを尊重し、選択肢の機会を多く作るよう心がけている。また生活する中で得意分野など、その方の生活から職員が学ぶ関係作りができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状態変化など少しの事でも情報提供を行い、受診時や外出時などご家族とご利用者の事で情報を共有を行っている。また食事作りや施設内での野菜作りの方法をアドバイスを頂いたり、信頼関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や、外泊は感染対策の為見合わせている。制限があり不自由な事もありますが、馴染みの場所をドライブしたり、いつでも面会して頂けるよう関係が途切れないよう努めている。	馴染みの友人との交流の機会を作ったり、台風後、自宅の被害状況を確認したいという利用者には、職員付き添いで自宅を確認できるように対応した。これまではコロナ禍により地域行事に参加できていなかったが、今後は感染状況を確認し感染対策を講じながら、地域との交流ができる機会を作れるよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うもの同士、同じテーブルにしたり、野菜の下処理など作業したり、ビデオ鑑賞したりと入居者同士が関わり合いを持てるようにしている。また関わり合いが苦手な利用者も孤立しないよう、また無理のないよう安心できる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても面会に伺うなど、気兼ねなく相談して頂けるように本人・ご家族な関係づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとり希望や意向の確認し、変化する状態にも合わせて日々意向の把握につとめている。またご家族にも協力して頂き、職員との情報共有を行っている。	日々の関わりの中で利用者の希望や思いを把握するように心がけ、職員間での情報共有もしている。利用者からの把握が困難なときには、家族から情報を収集し、確認するようにしている。化粧することを日課としている利用者には、粉だらけになりながらも利用者の身なりを整える楽しみが持てるようなケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時の実態調査時より、ご家族・関係者から話を聞き、生活歴の把握し、入所後は会話の中で聞き取り、職員間で共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録にて状態把握に努め、業務ミーティングなどで、情報共有を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族より生活歴や希望・意向を聞き取りそれを踏まえ、ご利用者との関わりの中で情報を収集し、業務ミーティング・カンファレンスなどでアイデアを出し合い介護計画に反映させるように意識している。	介護計画書は介護支援門員が作成し、職員ミーティングで周知し、確認している。計画書をもとに全職員が支援内容については、理解し日々のケアに取り組みやすく、また記録や評価が行いやすいように具体的に表記している。モニタリングは、職員ミーティングで、全職員で行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の個別記録を参考にしながら、食事量や体重・排泄状況など細かい情報を確認し、ご利用者の状態把握に役立てている。情報を基にその時にあった介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時などの送迎・移乗介助、現在は控えているが、外出時などの送迎・買い物依頼など本人・ご家族の要望に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策にて制限はしているが、地域のフリーマーケットに出かけたり、行事の参加している。また施設周りを自由に散歩したり、花見やシーカーサーなど季節の食べ物を収穫したりと豊かな暮らしを楽しんで頂けるようつとめている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の確認し、定期受診や状態変化時の受診時に状態の申し送りを行っている。また受診時の送迎を行い、希望がある方は付き添い受診の支援している。	入居の利用者全員がかかりつけ医を継続していて定期受診している。原則家族対応での送迎と診察としているが、家族が高齢で待ち時間中のトイレ介助などが困難な場合に職員が同行して介助を行い、必要に応じて診察の同席もしている。通常書面でかかりつけ医とやりとりしているが、家族の事情と利用者の状況の変化を考慮して柔軟に対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定にて状態を確認し、また変化時や判断に困った場合等は都度指示を仰いで相談体制が取れている。24時間訪問看護ステーションとオンコール体制がとれ、安心して業務ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も面会し、状態の確認する事で退院後もスムーズに施設利用できるよう環境整備やケアの仕方など情報共有を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の支援の在り方の説明を行っている。また緊急時・急変時などの対応についても同意を得ており、状態変化時に再度確認の話し合いを持つことで意思確認と関係者との情報共有を行えている。	入居時に重度化や終末期に向けた指針を家族に説明し意向の確認を行う。利用者の状態が終末期だと想定される際には家族に気持ちを整理してもらうため適切なタイミングでの再度の説明と意思確認を行うように務めている。また看取りを行う職員の精神的不安の軽減のため勉強会を実施して具体的な行動を明確にして不安の軽減と備えを整えている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的にAEDの訓練や救急時の対応など勉強会を持ちもしもの時に落ち着いて実践できるよう努めている。	近隣で起こった地域の救命事案を参考にAEDによる訓練を受講して実践力を身につけている。事故発生時のマニュアルを整備している。事故報告書とヒヤリハットを事故発生と再発予防に活用すべく今後の対応事項の共有につとめ、具体的な行動までの落としこみをミーティングや申し送りの場面などで、日々留意して実践している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的に行っている。	BCPは整備中。消防の立ち合いは無いものの、火災・災害訓練を自主訓練行っている。感染症のマニュアルの整備行っており、施設外の感染症の勉強会に参加し、また施設内にて勉強会行い共通認識している。	消防設備点検を外部事業者へ委託し半年に一度実施している。災害時に備えての備蓄を3日分用意し備品リストと調理法、使用手順の整備を行っている。今後昼夜間想定防災訓練を実施計画中(年度内2回)昨年度も開催済み。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格を尊重し、排泄や入浴の声かけ、自尊心を傷つけない声かけを意識している。職員間の申し送りの方法なども配慮行っている。	利用者の尊厳にかかわる言動に配慮する努力を実践している。職員が利用者に対して「臭いするから入浴しましょう」など不快にさせないよう配慮したり。職員間での申し送りや業務上声を出してコミュニケーションを取る際の「排便」に関する言葉を第三者に聞かれて本人の羞恥心を傷つけないよう暗号化し、職員にのみ伝わるよう工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者ひとり一人の思いを尊重し、さまざまな場面で選択できるように支援行っている。言葉でうまく表現できないご利用者に対してクローズドクエッションの方法を取ったりと対応行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴も頭に入れながら、一人ひとりのペース・体調に合わせた支援を行う様に気をつけている。日中の活動も無理強いする事なく本人の希望に沿って支援行う様心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが自由に楽しめるように衣類を選択してもらったり、髪型なども好みに合わせて選択できるよう支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事にも意識して頂く様、中庭で栽培し、収穫したものを食卓に出したりと支援している。重度化により、準備なども限られてきたが、野菜の下処理などできることは一緒に行っている。	中庭のプランターで職員と利用者が野菜を栽培し、細かい手入れは職員、水かけは利用者と役割分担している。収穫から実食した際は「収穫早かったかな」「まだ固いね」など利用者から主体的なコミュニケーションを引き出し食の楽しみを提供する工夫をしている。今年度から制限していた利用者と職員と一緒に食事をする環境を再開させている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量はチェックを行い、職員全員で把握できるように努めている。また摂取してもらいやすい時間帯など観察し、栄養補助食品なども取り入れながら体調管理おこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、付き添い、声かけしながら口腔ケアを行っている。また不十分な方は職員が実施している。舌ブラシを使用したり、夜間帯は洗浄液に漬けるなど行い誤嚥性肺炎予防に努めている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックなどを記入し、排泄パターンにて声かけ誘導などの時間帯を工夫している。またパットの検討も行っている。	利用者が排泄する際に失敗や不快感で不安な状態にならないよう、声かけの誘導や、汚した衣類の洗濯、羞恥心や自立心に配慮しつつ、自力で排泄行為が可能か、尿漏れの個々の状態に合わせて適切な下着、履くパンツを選択検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックにてこまめに水分の提供。朝食にお芋や、牛乳が入ったココアやカフェオレの提供。毎日のヨーグルトに果物やオリゴ糖を混ぜるなど工夫を行っている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お出かけが好きなご利用者はお散歩を目的に服選びから、コーヒーは好きなご利用者は美味しく頂く為などに入浴の声かけを行っている。また拒否がある場合は時間の調整や日にちの変更など行っている。	入浴を抵抗なく自ら「入浴したい」と思えるよう個々の趣味嗜好を利用して支援している。コーヒー好きな方には入浴後のタイミングに合わせて出来上がりを飲めることを伝えて行動を促し、「温かいコーヒーが飲める」という本人の思いに寄り添う工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動していただき、夜は休んで頂く様に生活リズムを作るよう支援している。食後静かに休憩したい方、生活音がある場所が安心する方など一人ひとりに合わせてすごせるよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルにて服薬情報を綴りいつでも職員が確認できるようにしている。受診時に変更などがあれば業務日誌にて記入、また業務ミーティング行ってにて再度確認している。	服薬に関する手順を整理してマニュアルにそった支援を行っている。過去に起こった誤薬の事故報告を参考に手順を追加して、職員の確認項目を複数で行うダブルチェック方式を採用している。薬に関する重要性和誤薬が起こった際の利用者へ及ぶリスクを職員間で共有して再発防止と手順の遵守に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の栽培・収穫など興味がある事の支援。また洗濯たみや野菜の下処理など役割づくりをおこなっている。プリンやコーヒー・タバコなど嗜好品の提供も行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染防止の為外出は少ないが、受診の帰りなど海岸をドライブしたり施設近くの花見のお散歩など行っている。	不特定多数の人間が集まる商業施設への外出は自粛しているが、夏に襲来した大型台風による被害を心配した利用者が「自宅の様子をみたい」と要望があった際には自宅へ出向き被害状況の確認と家族の顔を見て安堵するといったことや、受診が終わって職員が送迎をする際、海辺を散歩して自然に触れるなどの個別対応をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染防止の為少ないが、近隣の地域のやおやに出向き自ら食材を選び、購入して頂いている。またドライブ時など自販機で好きなものを自販機で購入していただいている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいときに、ご家族に自由に電話したりできるよう支援している。施設で作ったものや写真などに一言添えたりし郵送や手渡ししている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常時エアコンで過ごしやすい温度を保っている。台所は共有スペースに面しており、調理中など大きな音を立て不快のないよう気をつけている。また大きな窓からの入り日が気になる場合はカーテンなど対策している。ホールや廊下に作品を掲示し、季節を感じていただけるよう工夫している。	採光の配慮された共有スペースになっている。円卓やリラックスできる背もたれが広い椅子に腰掛けて過ごせて周囲が見渡せる。廊下の壁には自然な形で絵画が飾られていたり、利用者の作品掲示もあり季節を感じられる配慮がところどころ見える。利用者同士の席の配置でも不快なやりとりが発生しないよう気配りされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにて一人を好む方、他の利用者とのコミュニケーション取れる場所、中庭や畳み間など好みの場所で過ごせるよう自由に安心して過ごせる場所の提供を行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使用していた寝具や、家具を持ち込んだり、ご家族の写真やお花を飾ったりと居心地良く安心して過ごせるよう努めている。	居室のつくりが入口からベッドが見えないようプライバシーに配慮された作りになっている。入居時に持ち込んだ寝具や家具、他に家族写真といった生活に馴染みのあるものが整理されており、ある男性利用者は息子さんの仕事で新聞記事に取り上げられていたのを喜んでベットから見える位置に新聞記事を掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日にちを大きく提示したり、新聞の置き場所をわかりやすくしている。またお部屋やトイレの場所も本人のニーズに沿って掲示している。中庭も安全に行き来できる様デッキを設置し、段差を解消し安全に暮らせるように支援している。		